小学校国語科における
「児童の想像する意欲を高める」授業実践

―物語を用いた学習を通して―

学籍番号 189982
氏　　名　西尾　優理也
主指導教員　　糸井川　孝之

1. はじめに

本研究は「児童の自尊感情を高めるために、学校教育ではどのようなことをしていけばよいのだろう」という疑問が動機となった。池田寛は、自尊感情とは「自分に対する誇りや自分を価値ある存在と思う気持ちの事であり、自己概念の中でも自分に対する正の評価を示すもの」である。また、『「社会を変えていこう」「差別をなくしていこう」というときにも、本人自身が自分に対する自信、自分はやればできるのだという気持ちをもっていなければならないとし、この自尊感情ということばは、さまざまな学校や地域の取り組みの柱として打ち立てられている』と指摘している（池田２０００）。報告者は自尊感情を高めることをめざし、その要因を探求していくことを目的に、小学校国語科で授業実践を行っていくこととした。

2. 基本学校実習Ⅱ

基本学校実習Ⅱでは、教科書の教材を用いず、小学校三年生を対象に全４時間で「表現し、伝え合う機会のある授業」を軸に構成することとした。「表現」の部分は「物語を書く」という活動を設け、「伝え合う」の部分は自分の書いた物語を発表し合い、良かったところを伝え合う、という活動を設けた。授業後におけるアンケートの中の、児童の自尊感情や自己肯定感などに直接かかわってくる Q3（「自分の作った物語を他の人に聞いてもらってどんな気持ちになりましたか」）では、一言であったり、短い文章で書いている児童が多かった。主に多かったものとしては「恥ずかしかった、（ちょっと）恥ずかしい」（全体の３６％）。「楽しかった、楽しい、」（全体の２０％）といったものが挙げられた。

3. 発展課題実習Ⅰ

発展課題実習Ⅰでは「想像する意欲」を伸ばすというところに重点を置いて進めることにした。そのために児童が考え、表現する機会を多く取り入れ、グループ活動も積極的に行っていくこととした。また今回は小学校四年生の一クラスで全四時間で実践した。光村図書の教科書教材である、あまんきみこの「白いぼうし」と「山ねこ、おことわり」を使用し、「二つの作品の主人公である松井さんの人物像についてせまる」というテーマのもと、授業実践を行った。第四時のワークシートをルーブリックに沿って、報告者と、小学校の教員免許を所有している大学院生（第三者）でそれぞれ別々に評価した。児童が想像しながら深く考えようとしているか、をワークシートで評価することは非常に難しいことであり、普段の授業や校務の中で児童のことを把握することが非常に高いレベルで求められる、ということが理解できた。

4.発展課題実習Ⅱ

発展課題実習Ⅱでは授業実践の中で、「想像する意欲」が高まっているということがわかる要素を児童の発言や、ワークシートの中から見つけ、それを考察し、今後の授業実践に活かしていけるようなアプローチを行うことを目的とした。発展課題実習Ⅱでは実習校との授業時間の調整などの結果、「重ね読み」の手法を用いることができなかったので、教科書（光村図書）に掲載されている「プラタナスの木」を用いて、小学校四年生を対象に授業実践を全七時間で行った。

検証方法として第一時と第七時を比較した結果、児童が自分自身で考えて記述する部分が、同じワークであるにもかかわらず、変わっている児童が多くいることが確認できた。しかしその理由に関してはワークシートに書く欄を設けておらず、聞き取りを行ったが、聞き取りを少ない人数でしか行うことができなかったため、教員になった際にはその点に気を付けていかねばない。

5. 今後の展望

今後「重ね読み」の手法を使った実践を積極的に行い、児童の「想像する意欲」が高まるかどうかを検証していく。また発展課題実習Ⅱで児童が自分で考えたものを書く際に前回書いたものから変わっている児童が多くいたことが分かったので、この相関性を今後検証していきつつ、実践研究を進めていく。またそのために、授業だけでなく、学校全体での取り組みからもヒントを探し、長い時間をかけて研究を進めていき、様々な形で学校教育に貢献していきたいと考える。